

仏祖の護持しきたれる修証あり、 いはゆる不染汚なり

『正法眼蔵』洗淨

先日あるご住職から、次の言葉を印刷したはがきを頂戴しました。

『「口」も濁れば 「愚痴」になる

「意志」も濁れば 「意地」になる

「徳」も濁れば 「毒」になる』

「くち」にテンテンをつければ「グチ」。

いくらすばらしい言葉を口にしても、心の中に嫉妬や欲得が満ちていたならば、その口から出てくる言葉はいつか「愚痴」になってしまうでしょう。

「いし」にテンテンをつければ「イジシ」。

意志を強く持つて仕事を成し遂げ、人生を送ったとしても、自分本意で周囲のことを考えなければ「意志が強いんじゃない、あの人は意地になっているんだ」と思われてしまいます。

「とく」にテンテンをつければ「ドク」。

いくらよい事をし徳を積んだとしても、「あれはおれがやってやったんだ」と自慢して鼻に掛けるようになったら、それは「徳」ではなく、周りの人にも不快な「毒」になってしまいます。

仏さまのお悟りという立場にあれば、言葉や行為というものは本来清らかなもの、純粋なものです。しかし悟り得ない我々凡夫は、どうしても気づかぬ内に自分の見栄や作為、不平や不満の上にそれらの行為を行つてしまいがちです。何か見返りを求めたり、心の中に嫉妬や欲得を持つていたりすることで、いつの間にか私達の言葉や行為は濁つてしまうのです。そして結局、相手を傷ついたり迷惑をかけたりしてしまいます。

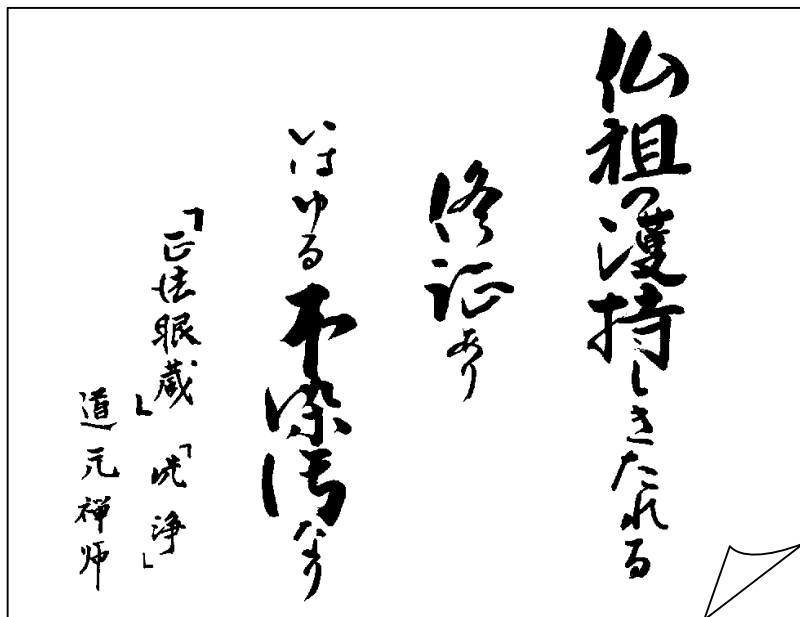
冒頭の言葉は、『正法眼蔵』洗淨の中の一節です。「修証」とは「修行と悟り」のこと、「不染汚」とは「汚染されない」という意味です。人は本来、清浄にして汚されることの無い素晴らしいものを具えています。汚いもきれいも無い、それらを超したところにいるのに気づくために、祖師方も修行してこられたと道元禅師はお説きになられます。

「口」が「愚痴」になり、「意志」が「意地」になり、「徳」が「毒」になる。この言葉は、我々の日常の行為とその結果にたとえることができるでしょう。損得勘定を第一に考えたり、自己主張を繰り返すのではなく、周囲の人の心が軽くなるような、濁りのない仏さまの言葉や行動を心掛けたいものです。

これは道元禅師の書かれた、『正法眼蔵』「洗淨」の冒頭の句です。洗淨とは文字通り「洗い浄める」ことであり、この巻は爪切り・髪を剃ること・大小便の仕方やその後の手の洗い方等を具体的に説き示しています。それらは人間の行為の中では汚いものと考えがちですが、日々の生活の中で大切な行動であることは言うまでもありません。

このような、日常のありふれた行為の中に、仏法の真意を捉えようとするのは、禅宗独特の教えです。

道元禅師は「私達は汚れている（迷い）から、修行してきれい（悟り）になる」のではなく、「私達は本来、すべてきれい（悟り）の中にある、という事に気が付くために修行をするのだ」と仏法の一大事を示されているのです。



曹 洞 宗

神奈川県第二宗務所
第五教区 布教部・出版部